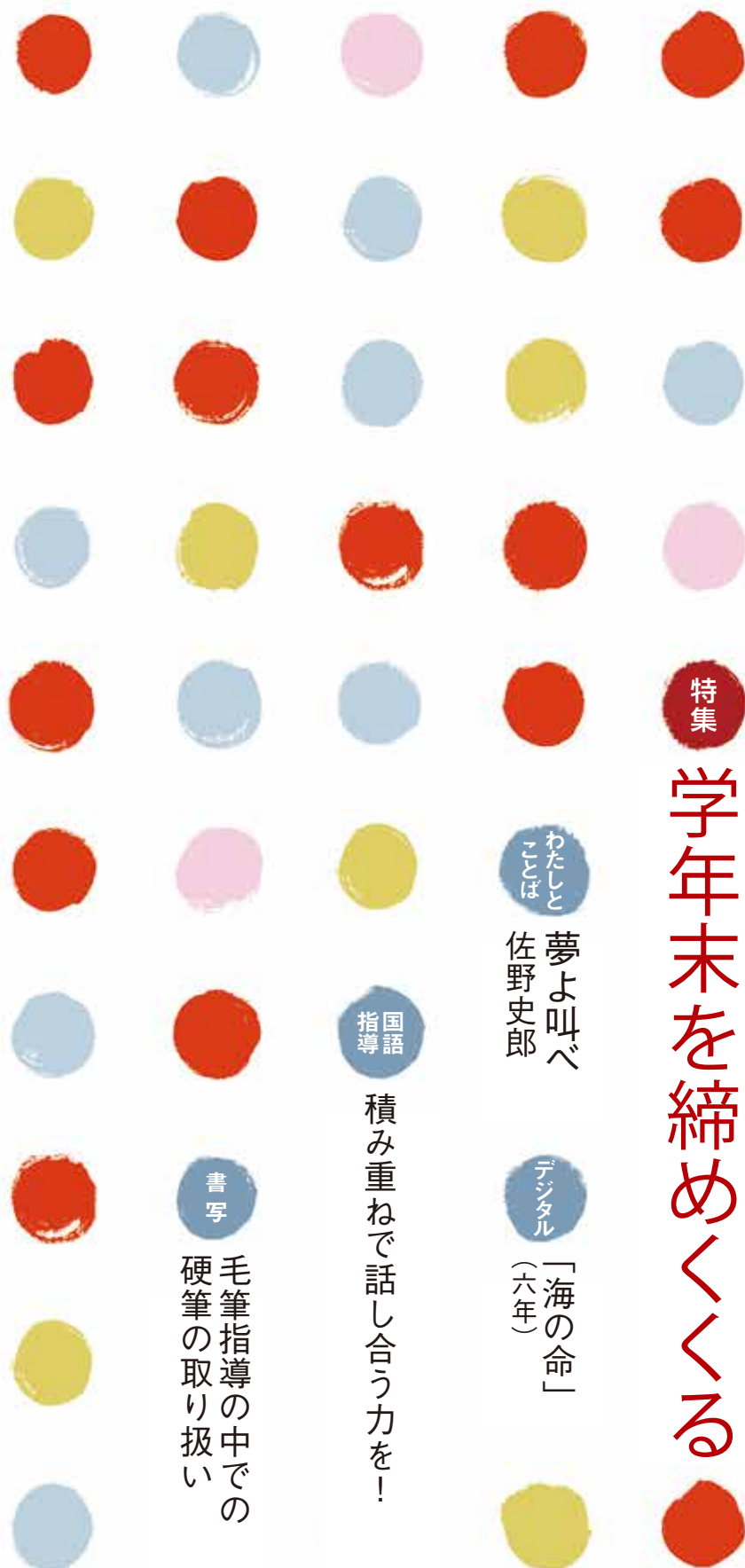


国語教育相談室

小学校
no.
90

光村図書



特集

学年末を締めくくる

わたしと
ことば

夢よ叫べ
佐野史郎

国語
指導

積み重ねで話し合う力を！

書写

毛筆指導の中での
硬筆の取り扱い

デジタル

「海の命」
(六年)

2017, いっしょにはじめませんか。
これからの学び。



学びの限らない未来をひらく。
光村図書のデジタル教科書。

体験版はホームページよりダウンロードできます。

www.mitsumura-tosho.co.jp/digital/

小学校
指導者用

平成27年度版小学校教科書準拠

光村「国語デジタル教科書」1～6年

DVD版 各72,000円＋税
ダウンロード版 各23,000円＋税

光村「書写デジタル教科書」1～6年

DVD版 各21,000円＋税
ダウンロード版 各7,000円＋税

光村「社会デジタル教科書」5年 6年

DVD版 各72,000円＋税
ダウンロード版 各23,000円＋税

光村「せいかつデジタル教科書」上下巻

DVD版 60,000円＋税
ダウンロード版 20,000円＋税

DVD版

使用期間は、平成27年度版教科書の
使用期間内です。

ダウンロード版

1年単位でのご使用も可能となりました。
使用期間は、左記期間内の1年間です。

※指導者用デジタル教科書は学校フリーライセンスです。学校フリーライセンスとは、
校内でご利用になる指導者用パソコンの台数を制限しない契約です。



光村図書は、CoNETSに参画しています。
www.conets.jp

小学校
学習者用

「国語デジタル教科書」



ともに学ぶ授業に

伝え合う力が
身につく授業に

個に応じた授業に

いよいよ2017年3月に
発売決定!!

商品の情報につきましてはホームページにて
随時公開予定です。



光村図書

小学校 国語教育相談室 通巻No.175 2017(平成29)年1月23日発行

発行人＝小泉 茂 発行所＝光村図書出版株式会社 東京都品川区上大崎 2-19-9 〒141-8675 電話 03-3493-2111
www.mitsumura-tosho.co.jp E-mail:koho@mitsumura-tosho.co.jp 印刷所＝協和オフセット印刷株式会社 デザイン＝mg-okada

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。
詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。 www.mitsumura-tosho.co.jp 広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書出版までご連絡ください。

夢よ叫べ

ボブ・ディランがノーベル文学賞を受賞し、シンガー・ソングライターの表現がアカデミックな場で芸術として認められたことは大いに喜ぶべきことであらうが、一九六〇年代に思春期を迎え、フォークソングやロックに救われてきた自分としては「今頃になって？」と思わなくもない。

中学生の頃に初めて耳にしたディランの作品は、本人の歌声ではなくカバーで、ピーター・ポール＆マリーの「風に吹かれて」や、ジミ・ヘンドリックスの「オール・アロング・ザ・ウォッチタワー」、岡林信康の「戦争の親玉」などで、実はディランのオリジナルより好きだ。

声や演奏の好み……と言ってしまうはそれまでのだが、どうやら「なんとか自分のものにしたい」という表現者たちの姿勢に惹かれていたような気がする。

一九六〇年代といえば、敗戦国日本は連合国イギリスやアメリカの経済状況になんとか追いつき、追い越そうと必死だったと思いつくが、カルチャーやフォーク、ロックシーンにおいても同様で、欧米の

様相になんとか似せようと躍起になっていた。あの時代の熱さが懐かしく感じられるのと同時に、けれどシニカルな微笑みも浮かんでくる。

明治維新の開国時と変わらない日本という国の海外文化の取り入れ方。いや、欧米であれアジア近隣の大国であれ、古来よりその外観に囚われる姿は今も変わっていないように感じられる。

けれどその一方で、外観に惑わされることなく、海外から渡来する感覚の本質を捉え、この地形と気象、身体に呑み込む力も強く感じる。戦後の日本企業の躍進は、そうした海外コンプレックスをいち早く撥ね退けていて、むしろ文化の方が日本国内のアカデミズムにがんじがらめになっていたのかもしれない。

だからこそ、その呪縛から解き放たれた音楽、ファッション、アート、写真、演劇などが一九六〇年代に噴出したのだろう。

だが、時世は変わり続ける。結局、いつも振り出した。

そんな中、ディランをも吹き飛ばすシンガー・ソングライター……いや、純音楽家が日本にいて、当時からその姿勢を変えることなく貫いている。

遠藤賢司。

彼の「夢よ叫べ」を聴けば、今も、思春期と同様に彼の歌声に救われ、励まされるのだ。



1955年、島根県松江市出身。75年に、劇団「シェイクスピア・シアター」に創設メンバーとして参加。80年、唐十郎主宰の「状況劇場」に移り、84年まで在籍。86年に林海象監督の映画「夢みるように眠りたい」で主演デビュー。92年、テレビドラマ「ずっとあなたが好きだった」の冬彦役で一躍注目を浴びる。TVドラマ、映画、舞台等で幅広く活躍中。小泉八雲の朗読をライフワークとしている。

CONTENTS

わたしとことば 夢よ叫べ 佐野史郎

特集 02 学年末を締めくくる

提言 松永立志
実践事例 低学年（読むこと） 青山由紀
中学年（書くこと） 遠藤綾子
高学年（話すこと・聞くこと） 大庭珠枝

デジタル教科書を効果的に活用しよう2 12 「海の命」（6年）
— 読みの交流を視覚化することで、お互いの読みを深め合う — 高崎智志

楽しく身につく書写の時間2 16 毛筆指導の中での硬筆の取り扱い 松本健作

なるほど国語指導8 20 積み重ねで話し合う力を！ 作・画／あべかよこ
監修／興水かおり

特集

学年末を締めくくる

今年度も残りわずかとなりました。一年のまとめとなるこの時期に、これまでの国語学習で学んだことを振り返らせ、その力がこれからの国語学習に生かせるということを、子ども自身に気づかせたいものです。

本特集では、学年末の締めくくり方について、松永立志先生（前鎌倉女子大学准教授）にご提言いただきます。そして、三名の先生方による実際の指導方法をご紹介します。

提言

学年末をどのように締めくくるか —児童の「言語活動履歴」を活用しよう—

前鎌倉女子大学准教授 松永立志

体育科の指導に学ぶ

体育科の学習において、子どもたちは、自分の運動技能をよく知っています。知っているがゆえに、次のような場面を見ることができません。

- 共通のめあてを聞いて、自分自身のめあてをもつことができる。
- そのめあてについて、次の学習につながる振り返りを行うことができる。
- 自分の技能に合った道具や方法を選択することができる。

- 技能の高まりや、できるようになった喜びを自覚することができる。
- 技能を互いに教え合ったり学び合ったりすることができる。

振り返って、国語科の学習においては、どうでしょうか。子どもたちは、自分の言語技能をよく知っているでしょうか。学習

中に、前述した場面を見ることができませんでしょうか。

どんな力が身についたか

学年末を迎えるにあたって、子どもたちにどんな国語の力（特に言語技能）が身についたかは、教師として、誰しもが気になることです。そこで、これまでの学期ごとの評価を分析したり、ポートフォリオ評価を中心にした総括的な評価を行ったりしているのではないのでしょうか。

ここで大事なことは、教師が実態を把握するだけではなく、子ども自身が、自分はどうくらい国語の力が身についたかということを意識しているかどうかです。学年末の振り返りは、次の学年における国語科の学習に意欲的に取り組めるかどうか、大きく関わってくるのです。

そこで、次の三点に取り組むことを提言したいと思います。

- ① 言語技能を意識させる学習の設定
- ② 子ども自身によるポートフォリオ評価
- ③ 学習習慣の振り返り

① 言語技能を意識させる学習の設定
まず一つ目は、学年末に行う最後の国語科の単元において、言語技能を意識せざるをえない学習を設定することです。どの領域でもいいのですが、はっきりと分かりやすいのは、「書くこと」の領域でしょう。例えば、六年生においては、小学校生活最後のまとまった文章を書く教材「随筆を書くこう『忘れられない言葉』」です。時期的に、卒業アルバムや卒業文集制作に絡めて、読み手は、「十年後の自分」にします。社会人になった自分が、

小学生時代に書いた文章を読み返し、「意外に書けてるね」「けっこう大人びた文を書いてるなあ」などと評価してくれる文章を書くという目的意識をもたせます。その目的を達成するため、これまでに学習した文章構成の工夫、事実と感想・意見の書き分け、日常使わない語彙の使用など、書くことの技能を、十二分に発揮させます。特に、倒置法、体言止め、擬人法、比喩や反復、オノマトベ、問いかけなどのレトリックを、縦横無尽に使いながら、思い切り背伸びをして、自分との対話を文章化させます。この言語活動によって、子どもは、自分の言語技能をいやがうえにも意識することになります。

②子ども自身によるポートフォリオ評価

二つ目は、子ども自身がポートフォリオ評価を行うことです。ただ単に、一年間の学習の成果物を集めて振り返るだけでは、言語技能の習得を確かめるのには不十分です。その成果物を生み出すために使用したノートやワークシートが、添付されていないではありません。そして、そこには、自分が考えて書いた鉛筆の跡と、友達との学び合いや先生の指導助言の結果を書いた色鉛筆の跡が、ともに残っ

ていることが、自らの技能の成長を振り返るのに有効なのです。

さらに、重要なのは、形に残る物の他に、子どもの音声や録音・録画しておくことです。音読朗読、スピーチ、討論など、「話すこと・聞くこと」の学習の成果も、振り返ることができるようにしておくことが、技能の成長の確認につながります。

③学習習慣の振り返り

三つ目は、自分にどのような学習習慣が身についたかを、子ども自身が振り返ることです。漢字の書き取り、音読練習、読書や辞書引きの習慣、学習した言葉を自分の語彙表に書き加える習慣、簡単なメモだけでスピーチする習慣、誰かが発言したら何かしらの言葉で返す（対話する）習慣など、さまざまな学習の日常化によって、習慣化されたものがあるでしょう。学びの基盤となる習慣を、子ども自身が振り返り、自覚することが大切です。

「言語活動履歴」を引き継ぐ

現行の国語科学習指導要領においては「言語活動を通して指導事項を指導する」ということが重視されています。そのた

中学年は、説明文の読解技能の指導が本格的に始まる第三学年において、報告する文章を書く実践です。「要点を押さえたメモ」の指導を中心に、書くことに充実感をもたせることができるまとめになっています。

高学年は、六年間の力を総動員して、スピーチする内容（言語内容）とスピーチする方法（言語形式）をしっかりと考えさせる実践です。自分自身の学習目標の設定、スピーチの録画、原稿の書き方の選択など、細かい工夫を織り込みながら、小学校の国語科学習の喜びにつなげていきます。

いずれの事例も、これまでの学習の成果をいかに活用するか、いかに満足感をもって学習を締めくくるか、そして、いかに次の年度につなげていくかをしっかりと考えています。

おわりに

「国語の勉強は楽しい」。このような子どもの言葉こそが、多くの教師が長年追い求めてきた国語科の授業改善のゴールです。しかし、「楽しさ」とは、ただ単におもしろいというものであってはなりま

め、言語活動を基盤においた国語科の単元を構想する必然があります。

そこで、学年末を迎えるにあたり、一年間の国語科の各単元において、どんな言語活動を設定し、その結果はどうであったかを把握します。学年の変わり目には、新担任は前担任から、各児童について、その学習の状況や性格行動の特性、健康の状態、家庭環境などの引き継ぎが行われます。その際、「言語活動履歴」も、併せて引き継ぐとよいでしょう。次のような内容について記録を行い、まとめておきます。

- ①単元名
- ②教材名
- ③実施した言語活動
- ④言語活動の実施状況
- ⑤言葉の力の定着状況

この履歴の取りまとめにあたっては、④⑤の評価を伴う項目も含まれるため、記録の取り方について、校内の教員間で共通理解を図ることが必要ですが、ある程度簡略化された方法でもよいので、まずは取りかかることが肝要です。

この言語活動履歴をしっかりと引き継ぐ

せん。国語科においては、言語活動自体にやりがいがあつて、やってよかったと思えるものでなければなりません。さらに、「分かるようになった」「工夫できた」などといった、まさに言葉の力が身についた、あるいは高まってきたといった実感を伴うことが重要なのです。

そのためには、教師が、子どもの身につけるべき言語技能を明確にして授業を構想することが不可欠です。そして、それ以上に、子どもたちが、どんな言語技能が身についてきたか、まだ十分でないのはどんな言語技能かということ、自分自身ではっきりと自己評価して意識できるようなことが、不可欠なのです。それによって、「国語科としての知的な楽しさ」は具現化されるといえるでしょう。



鹿児島県生まれ。横浜市教育委員会指導主事、横浜市小学校校長、鎌倉女子大学教育学部教育学科准教授として勤務。小学校学習指導要領解説国語編（平成11年、20年）作成協力者を務める。光村図書小学校「国語」教科書編集委員。

実践事例について

本特集では、三つの実践事例を紹介しています。低学年の事例は、低学年教材の特徴の一つである「繰り返し」に着目したものです。読む技術として焦点化することで、第二学年以降の教材の読みにも活用できたり、読書生活を豊かにできたりするという展望があります。



「繰り返し」のあるお話を紹介しよう

「だって だつての おばあさん」(二年下)

筑波大学附属小学校 教諭 青山由紀

はじめに

低学年向けの文学作品には、言葉や場面を繰り返すものが多い。教科書教材を例に挙げると、「おむすびころりん」「おおきなかぶ」「くじらぐも」「ずうっと、ずっと、大すきだよ」など、一年の教材だけでも多くのものが該当する。「繰り返し」は文章にリズムを生むのはもちろんのこと、読者に話の展開を予想させたり、最後だけ異なるパターンにして、結末を際立たせたりするなどの効果がある。

「繰り返し」は、一年生にも見つけやすい技法である。一年のまとめとなるこの時期に、「繰り返し」に着目する「読み方」を教え、これからの国語学習に生かしてもらいたいと考えた。

本単元は、「だって だつての おばあさん」(二年下)の終末に、「繰り返し」のある

るお話を紹介しよう」という言語活動を位置づけた。「繰り返し」に着目した「読み方」を身につけるとともに、読書活動へと広げることにもねらいとしている。

指導計画(全八時間)

一時	学習の見通しをもつ ・「題名」から内容を予想する。 ・教材文の範読を聞いた後、「繰り返し」のある作品を思い出す。
二時	登場人物を確かめる
三時	好きなところを出し合う
四・五時	「繰り返し」の言葉に着目して、おばあさんの変化に気づく
六時	紹介する本を決める ・繰り返しのある作品を出し合う。 ・教師がモデル文を提示する。
七・八時	自分が紹介したい本の紹介カードを作る

※紹介カードの発表は、朝の時間や、国語の時間の中で帯単元として扱う。

と投げかけ、「繰り返し」のある話を思い出させる場を作った。

四・五時

前時に、教材の中好きなところを出し合った際、おばあさんの「だって」に着目した子どもが複数いた。そこで、次の三つの会話文に焦点を絞り、読み深めていった。

P 106 「だって、わたしは九十八だもの。九十八のおばあさんがさかなつり

をしたら、にあわないわ。」

P 115 「だって、わたしは五さいだもの。

あら、そうね。五さいだから、さかなつりにいくわ。」

P 119 「あら、わたし、なんて、さかなつりがじょうずなんだろう。五さいって、なんだかさかなみたい。」

右のように、「だって」と「あら」が繰り返されているが、おばあさんの話す内容には変化が見られる。どのように変わったのか、意見を出し合った。

・九十八歳から九十九歳、五歳へと変わった。

・「さかなつりは、にあわない」から「さかなつりにいく」に変わった。そして、さかなつりが上手になった。

・「だって」ばかり言っていたのが、「あら」

の繰り返しに変わった。

長い教材であるが、「繰り返し」の会話文に焦点化して考えることで、中心人物の変容に迫ることができる。また、題名の「だって だつて」の意味に着目した意見も出た。「初めの『だって』は『行かない』の意味の『だって』で、二度目の『だって』は、『行く』の意味の『だって』だよ」というように、おばあさんの変化と題名を結び付ける、深い読みも見られた。

六時

一～五時で学んだ「繰り返し」に着目する読み方を活用するために、「繰り返し」のあるお話を紹介する」という言語活動を設定した。これまでに読んだ本の中から、「繰り返し」のある作品を選び、友達に紹介するという活動である。読書記録を振り返ったり、教科書一年下巻P41～45の「むかしばなしがいっぱい」を見たりすると、作品探しのヒントになる。特に昔話は「繰り返し」の典型なので、読書経験の少ない子どもでも探しやすい。

＊ ＊ ＊

紹介活動は、朝の時間や国語の時間の中で帯単元として扱った。授業の中で全員がまとめて発表するよりも、毎日二～三人ずつ

指導の実際

一時

教材を読む前に、題名から、「だって だつての おばあさん」の内容を予想させた。子どもたちはこれまで学んできたことに照らして、次のような発言をした。

・「だって」をたくさん言つておばあさんが出てくるのかな。
・わがままで文句の多いおばあさんが出てくるんだ。
・理由の「だって」かもしれないよ。

「だって」と「おばあさん」にしっかりと着目させたところで、教師が教材文を範読する。子どもたちは、自分たちの予想が合っているのかどうか気になり、注意深く範読を聞いた。それから、「今までも、こういう『繰り返し』のあるお話を読んだことがあるよね。どんなものがあつたかな」など

つ発表するほうが、聞き手にとっては毎回新鮮である。また、本を探す期間を十分確保できるので、紹介者も聞き手も読書活動につなげやすい。

【児童の紹介カード】

だいの	すいかのたね
出てきた人	ばばあちゃん、こねこ、こいぬ、うさぎ、きつね
あらすじ	ある日、ばばあちゃんがすいかのたねをうえました。(以下、略)
くりかえし	ばめん：がっかりして、またもとのようにうめといたんだ。かいわ：「くろいたねだ」
おすすめのことば	すいかのたねがおこっているところがおもしろかった。

おわりに

「繰り返し」を伴う作品には、次学年以降もたびたび出会うことになる。「繰り返し」に着目する読み方は、詩の理解や創作活動にも活用できる。また、説明文を読む際には、対比的な説明のしかた、事例の繰り返しなど、述べ方の工夫の気づきにもつながる。本単元の学びを生かして、これからの国語学習と読書生活をさらに豊かなものにしてもらいたい。(談)



中学年
書くこと

友達に伝える報告書を作ろう

「関連單元」本で調べて、
ほつこくする文章を書こう
(三年下)

横浜雙葉小學校教諭

遠藤綾子 えんどう あやこ

はじめに

「こまを楽しむ」「すがたをかえる大豆」など、三年生の説明文で学んだことは多い。例えば、「初め・中・終わり」の文章構成や、「中」の段落の順序性、挿絵の役割などである。一年間のまとめとして、それらを意識させた学習に取り組みせたいと考えた。司書教諭の協力も得て、「そだててあそぼう」のシリーズ（農文協）から、一人ずつ異なった本を用意し、配布した。その本を各自読み、報告書にまとめることにした。クラスの友達に伝えたいことは何か。本の中の多くの情報を相手に分かりやすく伝えるためには、自分の思考を整理しなければならぬ。そこで、読み取ったことを一度メモに整理するというステップを踏ませた。細かいステップだが、迷いを減らし、書くことへの自信につながると考えた。

指導計画（全十二時間）

一時	・ 報告書の形を知る ・ モデル文の提示。
二時	・ 調べる野菜や果物を決める ・ 「初め」の段落を書く。
三時	・ メモの必要性を感じ、メモの取り方を考える ・ よいメモの条件を知る。
四〜六時	・ 本から読み取ったことをメモに取る ・ メモを分類、選択する。
七・八時	・ 順序を考え、「中」の段落を書く ・ 挿絵の選択や配置を考える。 ・ 「終わり」の段落を書く。
九・十時	・ 清書をする ・ ミニクイズ、表紙を作る

○指導の実際

二時

報告書の「はじめに」の部分には、①読み手への問いかけ、②調べたこと、③調べた理由、④調べた本を書くよう指導した。また、読み手の興味を引くような書きだしをする例として、「すがたをかえる大豆」を思い出させた。その際、マンガラート(※1)を使って、調べる野菜や果物について知っていることや、イメージする

白 (9ト甲)	うひまろちゃん (ななかざん)	やろと なみだかお
オニオンスープ	玉ねぎ	さきかさんか てい
ジュリジュリ	丸い	野予さい

白 (㊦㊧)	うびまるこちゃん (なかなさん)	セカンド なみだかみ
オニオンスープ	玉ねぎ	さきかばんかみ ていり
シェリシェリ	丸い	里予さい

▲※1 マンダラートを使って、「玉ねぎ」についてのイメージを広げた児童作例。
中央に調べるものを置き、周りにイメージすること（大きさ、形、色、産地、味など）を書いていく。全部埋まらなくてもよいことにした。

ことを挙げ、書きだしのヒントにした。

三時

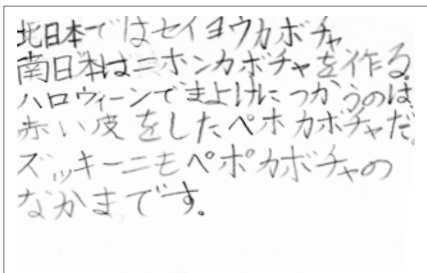
本で読んだことを丸写しするのでは報告書にはならない。そこで、読み取った内容を付箋紙にメモさせることにした。初めに、クラスで同じ題材を使い、メモの取り方やよいメモの条件を考える、「メモ指導」の時間を作った。①一枚一項目、②見出しを付ける、③箇条書きをする、④矢印や◎など記号を使う、⑤色分けをする。これらの条件がクラスで共有された。メモの取り方には個人差が見られたが、細かくステップを踏むことで、無理なく全員が完成させることができた。(※2・3)

七・八時

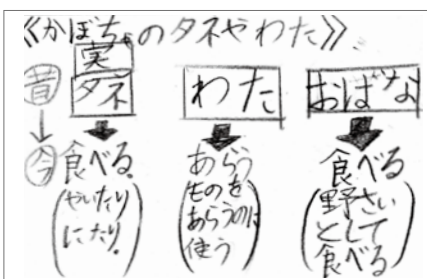
前時までに、取りためたメモの中から知らせたいものを選んでおき、本時では選んだメモ（三種類）の順序を考えさせた。「すがたをかえる大豆」で「中」の構成のしかたに筆者の意図があるのを学んだことを踏まえ、自分の選んだメモもこだわりをもった構成にするよう促した。①読み手に分かりやすい順、②自分が知らせたい順、③野菜の生長順、④歴史の古い順など、各自が「中」の構成を工夫した。各段落は、五文から六文程度でまとめさせた。また、挿絵が読手の助けになることも学んだので、有効な挿絵とその配置についても考えさせた。

○おわりに

初めて書く報告書だったが、今までの学習で身につけた力を活用しながら書くことができた（※4）。最後の交流会では友達の商品から学ぶことも多く、充実した時間となった。特に、普段書くことに抵抗を感じていた子どもたちが「楽しかった」「書き方が分かった」などと満足し、高く自己評価していたのが印象的だった。四年生では自分でテーマを探す力、多数の資料からまとめていく力、互いに推敲し合う力を養うことが新たな課題になると考える。



▲※2 メモの取り方を指導する前のメモ



▲※3 指導した後のメモ



▲※4 完成した報告書



高学年
話すこと
聞くこと

話し方を工夫してスピーチをしよう

—「今、私は、ぼくは」(六年)—

秋田大学教育文化学部附属小学校 教諭

大庭 珠枝

はじめに

卒業を間近に控えた三学期。小学校生活での学びを振り返ったり、自分の成長を見つめ直したり、これからの自分に思いをはせたりと、さまざまな思いを抱えながら過ごす時期である。このような思いを互いに伝え合う「スピーチ大会」を開き、友達と共に過ごした小学校での思い出を大切にしながら、新たな世界でさらに自分を磨いていこうとする意欲を喚起したい。

スピーチ大会の成功は、これまでに身につけてきたスピーチ力を総動員させられるかどうかにかかっている。相手意識をもつて話すこと、話の構成を工夫し順序立てて話すこと、理由や事例を挙げること、必要に応じて資料を提示すること。これらのような話し手としての力はもちろん、友達の思いを受け止めながら聴き、考えを深めよ

うとする聴き手としての力もいっそう高め、六年間の学びの集大成とすべく、本単元を設定した。

指導計画(全九時間)

一時	・話題設定 ・単元の計画を立てる。 ・伝えたいことを決める。
二時	・選材と構成 ・スピーチの構成を考える。
三・四時	・記述 ・構成を基に原稿を作る。 ・資料を準備する。
五時	・推敲 ・グループでスピーチの練習をし、助言し合う。
六・八時	・発表 ・スピーチ大会を開く。
九時	・評価 ・単元を振り返り、感想をまとめる。

指導の実際

一時

まず、小学校最後のスピーチの学習を通してどんな力をつけたいかを話し合わせた。子ども自身が学習の目標を設定することで、主体的に取り組むことができるからである。また、どんな内容を、誰に伝えたいのかも話し合わせた。内容については、次のようなものが挙げられ、この中から自分でテーマを決めて話すことにした。

- ・小学校で学んだこと
- ・小学校でがんばったこと
- ・いちばんの思い出・心に残っている言葉
- ・成長したと思うこと・尊敬する人
- ・成長を支えてくれた人・将来の夢
- ・伝えたい相手は、友達や家族という意見が多かった。そこで、スピーチを録画し、全員分を一枚のDVDに保存して配布

おわりに

スピーチを終えたときの、達成感にあふれた表情、そして誇らしげな表情。友達のスピーチをうなずきながら聴いている真剣な表情。お互いの思いを知る喜びや自分のスピーチ力を磨こうとする意欲にあふれる学習であったことがうかがわれた。

三年前の卒業生と創り上げた本実践。今年担任している六年生の子どもたちにも、もうひと工夫して取り組ませたいと考えている。彼らはどんな思いをどのように語るか。今から楽しみである。

三・四時

二時で考えた構成を基に、スピーチの原稿を書かせた。

書かせる前に次の二点を確認した。一つ目は、スピーチの時間(二分三十秒〜三分)について。二つ目は、原稿を読むのではなく、原稿を基にして(原稿を見ないで)「話す」のだということ。これは、一時で子どもたちが「つけたたい力」として挙げていたことでもある。

原稿は、話し言葉に近い状態で書くか、簡条書き程度にするかを選択させた。自分の力に応じて原稿を作成することは、子どもたちが最も苦しかった点である。タイマーを片手に話してみ、原稿を修正し、また

話す。そうして加除修正していくうちにいちばん伝えたいことがばやけてしまわないようにするために、キーワードや要点を資料として提示することが有効であることが助言した。

六・八時

一時で子どもたちが設定した目標の中から評価項目を選び、話し方と内容の両方を相互評価できるような学習カードを準備した(※1)。一人のスピーチをビデオ撮影しながら全員で聴き、終わったら学習カードに評価を記入して質問や感想を述べる。この繰り返しで進行していくと、一時間に約十人のスピーチが可能である。

原稿を基に練習して話す力。感想を述べたり質問に答えたりという、その場のやり取りの中でこそ鍛えられる、思考しながら話す力。スピーチ大会を通して、両方を鍛えることができた。

「今、私は、ぼくは」スピーチ大会 学習カード 六年 組 名前									
◎とてもよい ○よい △もう少し									
スピーチした人	声の大きさ	速さ	間の取り方	表情	内容	合計	(主にスピーチの内容面で)あなたの心に強く届いたスピーチをした友達を二人選び、自分の思いや体験と比べながら感想を書きましよう。		
							さんのスピーチを聞いた感想		
							さんのスピーチを聞いた感想		
							さんのスピーチを聞いた感想		
							さんのスピーチを聞いた感想		
							さんのスピーチを聞いた感想		
							さんのスピーチを聞いた感想		
							さんのスピーチを聞いた感想		
							さんのスピーチを聞いた感想		

▲※1 評価カード

文章中の-----は、「国語デジタル教科書」に収録されている資料や機能です。

読むこと教材(文学)

「海の命」(六年)

読みの交流を視覚化することで、お互いの読みを深め合う

文学教材を読む授業において、指導者用「国語デジタル教科書」(以下、デジタル教科書)の効果的な活用のしかたはたくさんあります。今回は、数ある方法の中から、読みの交流場面で書き込みツールを効果的に使う方法を中心に紹介します。根拠となる叙述や、友達の考えを視覚化することにより、お互いの読みを深め合う実践です。

六年の最後に扱う文学教材である「海の命」は、登場人物の関係を捉えながら、読み取った人物の生き方について考え、話し合うことができるため、中学進学を控えるこの時期の子どもたちにとって、とても有意義な教材です。この教材を中心にしながら、人生や命などの大きなテーマへと広げ、他の教材と関連させながら単元を組み立てていくことも考えられます。

本単元では、「海の命」も含めた立松和平の作品から〈命のメッセージ〉を読み取り、それを、感想文・詩・エッセイなどの形式で、自分の〈命のメッセージ〉としてまとめます。そのためには、まず、この教材の登場人物の関係をしっかりと捉え、人物の生き方について考えることが

指導目標

- 立松和平の作品を読み、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉えたり、優れた叙述をもとに作者の〈命のメッセージ〉を読み取ったりしながら、自分の考えをまとめることができる。【読1)エ】
- 立松和平の作品を読んで、考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。【読1)オ】

指導計画(全10時間)

- | | | |
|-----|----|---------------------|
| 第1次 | 1時 | 学習の見通しをもち、学習計画を立てる。 |
| 第2次 | 2時 | 「海の命」を読み、全体像を捉える。 |

デジタル教科書の活用場面①
登場人物を整理しながら、文章の全体像を捉える。

3時
〈命のメッセージ〉に迫るための「読みの課題」について話し合う。

デジタル教科書の活用場面②
疑問に思ったところや、みんなで読み深めたいところを共有する。

- | | |
|----|---------------------------|
| 4時 | ・「読みの課題」ごとに読みを深める。 |
| 5時 | ・「太一、おとう、与吉じいさの人物像」について |
| 6時 | ・「どうして太一はクエを打たなかったのか」について |

デジタル教科書の活用場面③
交流場面でお互いの読みを深め合う。

- | | | |
|-----|---|---|
| 7時 | 「海の命」から読み取った〈命のメッセージ〉について、自分の考えをまとめる。 | |
| 第3次 | 8時 | 立松和平の他の作品から読み取った〈命のメッセージ〉について、自分の考えをまとめる。 |
| 9時 | 「命」についての考えを交流する。(座談会) | |
| 10時 | 表現形式(感想文・詩・エッセイなど)を選択し、自分の〈命のメッセージ〉をまとめる。 | |

並行読書



1974年生まれ。広告代理店勤務を経験した後、27歳で公立小学校教諭に。横浜市小学校国語研究会を中心に市内の国語教育推進に取り組む。平成24年度文部科学大臣優秀教員に選ばれる。

デジタル教科書の活用場面①
登場人物を整理しながら、文章の全体像を捉える

①登場人物を整理しながら、文章の全体像を捉えるための手立て
②疑問に思ったところや、みんなで読み深めたいところを共有するための手立て
③交流場面でお互いの読みを深め合う手立て

本単元では、第二次において、「海の命」から〈命のメッセージ〉を読み取り、自分の考えをまとめる学習を設定しています。そのために、まずは「海の命」の全体像を捉えていきます。ここで大切なことは、漠然と読み進めながら全体像を捉えるのではなく、目的につながる読み、つまり、〈命のメッセージ〉を読み取ることにつながる「読み」を進めていくこ

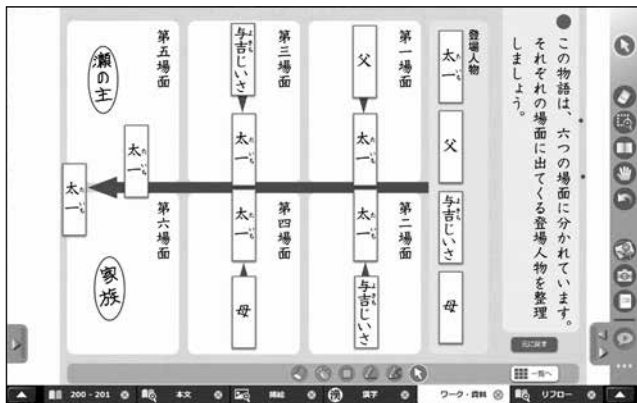
とです。登場人物の関係と、さまざまな人物と関わりながら成長していく太一の様子を捉えることが、それにつながると考えました。

そこで、デジタル教科書のワーク「場面ごと」に登場人物を整理しましょう。①を適用します。このワークは、主要な登場人物を選択して自由に動かすことができるので、それぞれの場面にどんな人物が出てくるのかを整理することができます。ここでは、場面ごとの登場人物を単純に整理するだけでなく、人物どうしの関係を意識しながら並べていきます。

例えば、第一場面では、登場するのは中心人物の太一と父ですが、太一は父の影響を受けて育ってきたことを読み取ることができるので、それが分かるように人物を配置します。第二場面では、太一が弟子入りした与吉じいさと太一の関係を意識しながら人物を配置していきます。こうすることによって、人物関係マップのように、人物関係の全体像を視覚的に捉えることができます。

またこの活動で、さまざまな人物と関わりながら成長していく太一の様子も意識させたいところです。そこで、父や与吉じいさなどの人物に影響を受けながら、

一人前の漁師へと成長していく太一の様子が視覚的に捉えられるように、人物の配置を工夫し、矢印を使って表現しました。さらに、黒板には、①おとうの死 ↓ ②与吉じいさへの弟子入り ↓ ③与吉じいさの死 ↓ ④父の瀬へ ↓ ⑤瀬の主との出会い ↓ ⑥その後」と展開していく場面の流れを整理しておきました。子どもたちが、場面どうしの関係を捉えられるようにするためです。



▲※1 「海の命」のワーク「場面ごとに登場人物を整理しましょう」

デジタル教科書の活用場面② 疑問に思ったところや、 みんなで読み深めたいと ころを共有する

「海の命」の全体像を捉えた後は、子どもたち一人一人が自力読みを行い、疑問に思ったところ（言葉・文）や、みんなで読み深めたいところを見つけ、共有します。まずは、少人数のグループごとに「読みの課題」を出し合い、共通点や相違点を見つけながら共有し、整理していきます。その後の全体共有の場で、ある程度精選された課題（みんなで読み深めたい課題）が出てくるように、その場で解決できる課題については、グループ内でどんどん解決していきます。それから、全体の場で、「読みの課題」を出し合い、整理していきます。その際に、板書とともに、デジタル教科書を活用しました。

例えば、太一、おとう、与吉じいさの言動に着目し、もつとみんなで深めたいと考える子どもたちが多くいました。課題を板書するとともに、子どもたちが着目した叙述を、デジタル教科書上に示していきます。教科書スクロール機能を使い、ページをまたいで教科書画面を表示します。そこに、それぞれの人物について

いう叙述に着目しながら考えていきました。その際、デジタル教科書の二画面表示の機能を使いました。例えば、「与吉じいさの人物像」に関連する叙述が、課題（太一はクエを打たなかった）と関連があるという意見が出た場合、※3のように、左画面に、「課題に関連する叙述」、右画面に「与吉じいさの人物像」に関連する叙述を映し出しました。「おとうの人物像」と関連した考えが出た場合には、同様に「おとうの人物像」に関連する叙述を右画面に映し出しました。二つの教科書画面を使い、根拠を明確にしながら交流できるようにしました。



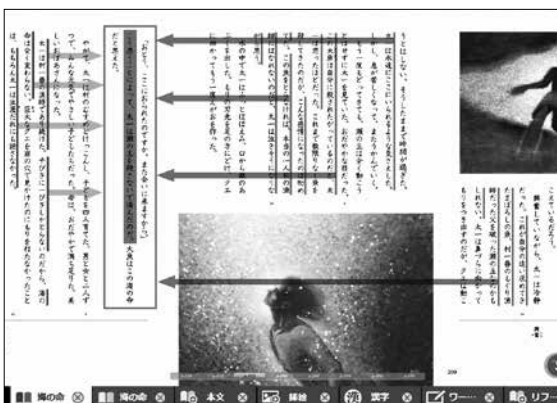
▲※2 叙述を、人物ごとに色分けした教科書画面

ての叙述を、書き込みツールで色分けすることによって、それらの叙述は、それぞれの人物像につながることで、さらに、三人の人物は、それぞれが深く関連し合っていることが視覚的に捉えられました（※2）。そして、「太一、おとう、与吉じいさの人物像」について読み深めるということが、みんなの共通の「読みの課題」になっていきました。

また、子どもたちが着目した叙述をデジタル教科書に整理していくと、クライマックス場面に集中していることが分



▲※3 二つの教科書画面
（左：課題に関連する叙述／右：与吉じいさの人物像）



▲※4 クライマックス場面および最後の場面

デジタル教科書の活用場面③ 交流場面でお互いの読み を深め合う

みんなの「読みの課題」が決定した後、課題ごとに読みを深めていきます。本単元では、主に、「太一、おとう、与吉じいさの人物像」と「どうして太一はクエを打たなかったのか」について読み深めることにしました。ここでは、後述の課題を例として取り上げます。一人読み、そしてグループでの交流の後、全体交流の場で、「こう思うことによって、太一は瀬の主を殺さないで済んだのだ。」と

かってきました。第二次の初めの段階では、子どもたちは、自分が着目した叙述を中心に考えていましたが、デジタル教科書上に視覚化された、友達に着目した叙述を俯瞰的に見ることで、それぞれの叙述の関連性について考えられるようになっていきます。そして、21ページの「こう思うことによって、太一は瀬の主を殺さないで済んだのだ。」という叙述に着目しながら、「どうして太一はクエを打たなかったのか」という課題について考えていくことになり、これがもう一つのみんなの「読みの課題」となりました。

デジタル教科書を活用して

文学教材を読む授業において、いわゆる読みの交流がよく行われています。お互いの読みを交流するために、付箋を使ったり、短冊を使ったりしながら、より根拠を明確に、視覚的に捉えられるように工夫した手立てが試みられています。今回、デジタル教科書を活用することによって、その手立てがより効果的なものになりました。お互いの読みを交流する際、教科書や板書を行ったり来たりしながら、友達が説明する根拠を探したり、叙述どうしの関連性を意識したりすることが難しいと感じる子どももいます。その点、みんなで同じ画面を見ながら、情報を視覚化できるデジタル教科書は、とても有効なツールといえるでしょう。また、叙述を根拠にして自分の解釈を明らかにしたり、優れた叙述について自分の考えをまとめたりするために、一つ一つの言葉に着目させるうえで有効です。

昨今、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善が求められている中で、「言葉で理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを広げ深める学習活動」の重要性が指摘されています。言葉に着目させる手立ての一つとしても、デジタル教科書を活用したいものです。

2

毛筆指導の中での硬筆の取り扱い

元静岡市立服織小学校校長

松本健作

1951年静岡県生まれ。
静岡県書写道振興会
副理事長、前静岡県書
写道教育研究会長。
県内の小・中学校や書
道教室で講師を務める。
光村図書小学校「書写」
教科書編集委員。

今回は、中学年を例に、「毛筆指導を硬筆に生かす工夫」についてお伝えしました。今回は、高学年を例に、硬筆、毛筆を関連させた授業の流れをご紹介します。

はじめに

小学校高学年の書写は、配当される年間三十単位時間程度の時数のほとんどを、毛筆指導に充てることが多くなっているようです。また、毛筆指導は、硬筆書写の基礎を養うためにある、というものの、硬筆への生かし方、日常の手書き文字との関連が授業で示されることはあまりありません。

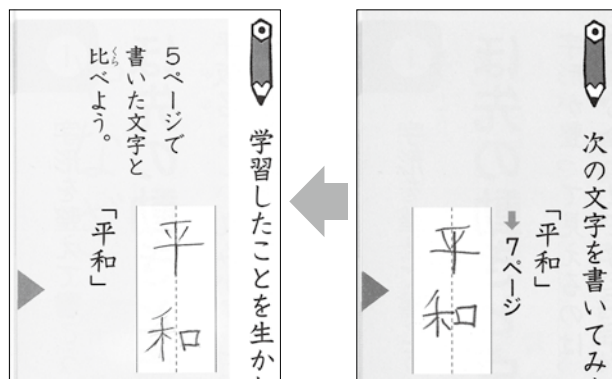
そんな学校現場の状況もあり、前回から硬筆指導を取り上げているわけですが、硬筆だけを指導するよりは、毛筆との関連で硬筆を扱う方が理解しやすいという

こともあり、毛筆指導の中での硬筆の取り扱いについて述べたいと思います。

教科書を活用して、
児童の書き文字の変容
を確かめる工夫

『書写』教科書を見てみると、日常の書き文字である硬筆の文字が、どのように上達していくか、児童自身が確かめられる工夫が見られます。例えば、五・六年の5ページでは、学年スタート時点の自分の文字を、硬筆で試し書きする欄が設けられています。五年生は、「平和」よ

もぎ「道」を、六年生は、「湖」「あけびゆらす秋風」を、筆記具の持ち方に気をつけて書きます。この時点では、文字の構成等に関する学習目標は示されていないので、児童が日常記す書き文字が教科書に残るかたちとなります（※1）。その後、どちらの学年でも、毛筆を使つてこれらの文字を学習します。例えば、五年の「平和」「よもぎ」は、6・9ページの「字形を整えて書く」（「ほ先の動きと点画のつながり」）の中で理解を深めます。それぞれの学習ページには、最後に硬筆でまとめ書きをする欄が設けられており、日常使用する硬筆にその学びが生かせるようになっていきます（※2）。



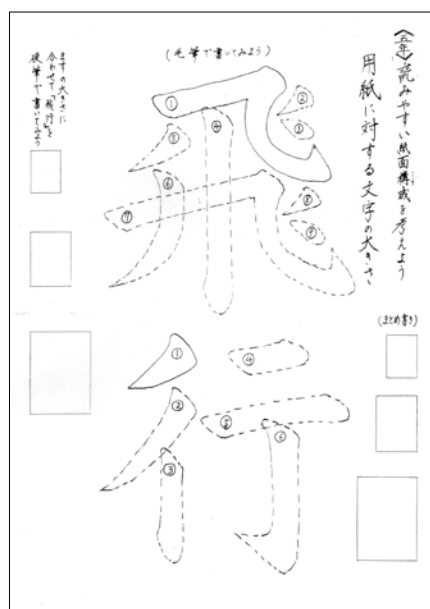
▲※1 学年スタート時点に書いた文字（『書写』5年p5）

▲※2 穂先の動きと点画のつながりに気をつけて書いた文字（『書写』5年p7）

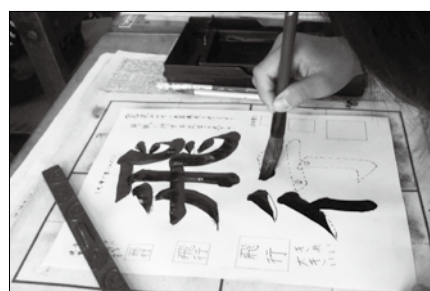
前回の「毛筆指導を硬筆に生かす工夫」でも述べたように、硬筆と毛筆を関連させて学習することで、硬毛両方を効率的に学ぶことができるのです。

四十五分の授業の中で、
成果を確かめる工夫

各単元での学習による文字の変化・学習の効果をj知nることは、前述のとおりで



▲※3 ワークシート①



▲※4 三種類のまですに、鉛筆で「飛行」を書いた後、毛筆で「飛行」を書く。

す。これに対し、四十五分という一時間の授業の中で、どのように変わったのかを知るためには、何らかの指導の工夫が必要です。自分の書き文字が、部分的にでも上のレベルに達した（上達した）と感じ取れる授業を提供できたら、児童の喜びもひとしおでしょう。ここでは、児童も取り組みやすく、硬毛関連指導が簡単にできるワークシートを紹介します。

1 用紙に対する文字の大きさを学ぶ

—「飛行」（五年21～23ページ）—

ここで使用するワークシートは、一枚の紙の中で硬筆から毛筆、毛筆から硬筆へと指導場面を素早く切り替えることができるものです。まず、毛筆で試し書き

をするのではなく、三種類の大きさのまですにつり合った「飛行」を鉛筆で書くことから始めます。ワークシート①（※3）の左側の三種類のまですの大きさに合わせて、「飛行」を三回書き、次に、毛筆でかご文字の「飛行」をなぞります（※4）。筆順・外形・上下左右の余白に気をつけながら書くことで、用紙に対する文字の大きさを感覚的につかむことができます。ワークシートを使用しないで、いきなり半紙に試し書きをjするnと、「飛」は画数が多いこともあり、用紙の半分以上を占める形で書いてしまい、「行」が書けなくなってしまうというケースがよく見られます。

読みやすさは、用紙に対する文字の大

ここまで、硬筆指導に関する細かな工夫を紹介しましたが、時には、もっと自由に書く時間も設けたいものです。

やさばごまな表現を 楽しむ

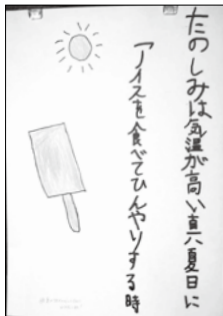


▲※6 児童どうして評価し合っている。

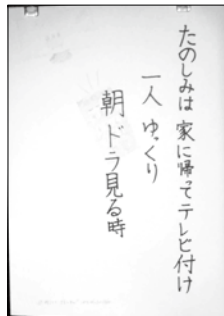
▲※7 「中心に気をつける」という学習目標を踏まえたうえで、友達の書きぞめを評価している。

個々の書き文字の表現方法は多岐にわたっています。しかし、読みやすいこと、丁寧に書いていること、誤字がないこと、紙面に対して構成が適切であること、見る相手に対して意識があること、これらが配慮されているならば、時にはこのよ

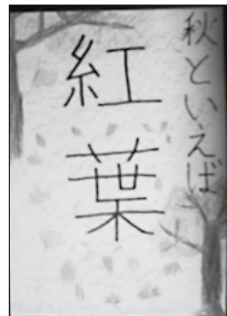
学校生活や家庭生活の中には、多くの種類の筆記具が存在します。紙面に対して大きく、太く、美しく書くには毛筆が適していますが、はがきサイズくらいの紙に俳句、短歌、詩を書いて掲示するとき、児童作例A～C（※8～10）に見られるようなサインペンやフェルトペンが書きやすく、扱いも簡単です。しかし、毛筆で書いた文字とは表現がかなり異なります。作例A（※8）のような、はがきサイズの中に大きく書かれた「紅葉」は、正方形の外形にしっかりおさまるような形で書かれ、少しデザイン化された字形になっています。既習事項の「へんとつくり」の関係や「画の長さ」についての学習成果は見受けられません。しかし、丁寧に運筆している様子はうかがえます。作例B（※9）は、「止め、はね、払い」をしっかりと表現していますが、作例C（※10）は、筆記具の関係もあるのか、払いの表現が曖昧で、ゴシック体を思わせる文字になっています。



▲※10 児童作例C
ゴシック体のように書いている。



▲※9 児童作例B
止め、はね、払いを
しっかり書いている。



▲※8 児童作例A
ます目いっぱい
書いている。

うなバラエティーに富んだ表現もおもしろいですね。児童の書き文字への関心を高める手立ても見えてくるかもしれません。

今回は、毛筆指導の中での硬筆の取り扱いについて、高学年の教科書や、自作ワークシートを使って紹介してみました。児童が、もっと書きたい、もっと知りたいたいと思うような書写のワークシート、資料作りの工夫をしてみたいものです。

さにより異なってきます。鉛筆で何回も書いて感覚を磨いたり、読みやすい大きさの文字をなぞるなどして、数多く書いたりすることで、読みやすい紙面構成を身につけることができます。

ワークシート①のかご文字を毛筆でなぞった後、紙面に対するつり合いの感覚が残っている間に、半紙に毛筆でさらに二枚「飛行」と書きます。自分なりに納得のいくもの、グループの友達が評価してくれたものなどの基準でいずれかを選び、鉛筆で、学年・名前を書きます。

最後に、まとめ書きとしてワークシート①の右側の三種類の大きさのますの中に「飛行」と鉛筆で三回書きます。授業の初めに書いた文字とまとめ書きの文字を一枚の紙（ワークシート①）の中で比較し、評価することによって、成果がひと目で分ければ、学習意欲、文字意識の高揚につながります。

2 目標の焦点化

―書きぞめ「希望」―

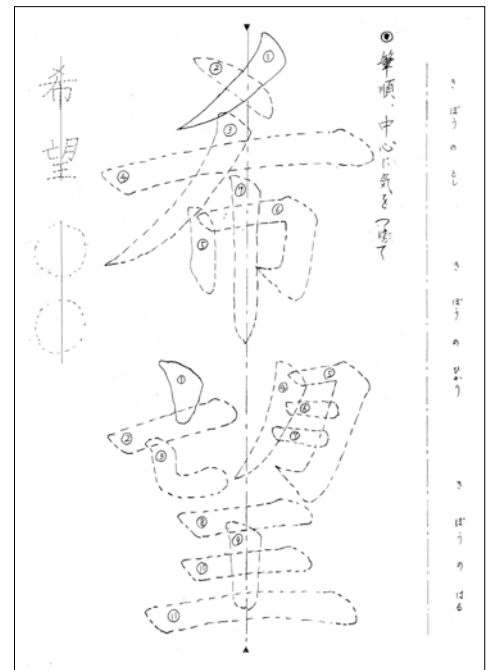
（五年26～29ページ）

この課題には、書くときに気をつけることが五項目示されていますが、クラスの実態に合わせて焦点化させることが大切です。ここでは主に、筆順と配列（文

字や行の中心）に気をつけて書くことを目標にしたワークシート②（※5）を使用して、硬筆→毛筆→硬筆の授業の流れをつくりまします。毛筆でのまとめ書きは、二枚のうち、より目標にかなったものに鉛筆で学年・名前を書きます。

このとき教師は、「生まれてから今までで、いちばん整った美しい自分の名前を書きましよう」と投げかけ、児童に軽い緊張感をもたせます。児童が普段自分の名前を書く場面はテスト用紙が多く、急ぐため、早くいい加減に書いてしまうことがほとんどです。それを克服する絶好の時間です。

毛筆で課題文字を大きく書き、文字の構成・筆順などを理解したところでワークシート②に戻ります。そして「希望」の筆順と行の中心に気をつけながら「希望の年」「希望の光」「希望の春」を鉛筆でまとめ書きします。四年の筆順と字形（課題文字「左右」）で学んだように、「希



▲※5 ワークシート②

の筆順を間違えていると、最終七画目の縦画を中心線より右側に書いてしまう傾向が強いので、常に「筆順に気をつけよう」「筆順は大丈夫かな」と呼びかけ続けます。

書き終えたら隣の児童と交換して、相互批評をする時間を作ります（※6・7）。学習の目標がはっきりしているので、児童どうして文字表現について語り合い、児童の尺度で評価をし合うことも可能です。このとき、「相手の書き文字のよいところを二つ以上、そして、直したいところを一つ見つけましよう」と投げかけ、まとめの時間としながら、次の授業への課題作りにします。

こしみず・かおり
 広島県生まれ。玉川大学教師教育リサーチセンター客員教授。23年の教員生活の後、港区教育委員会指導主事、
 東京都教育庁主任指導主事、小学校校長等を経て、現職。光村図書小学校『国語』教科書の編集委員を務める。

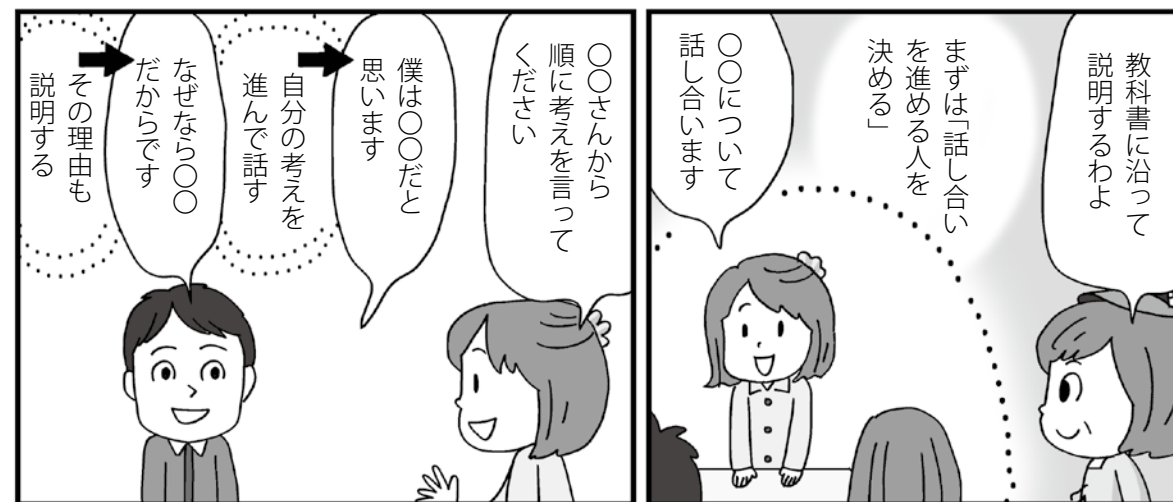
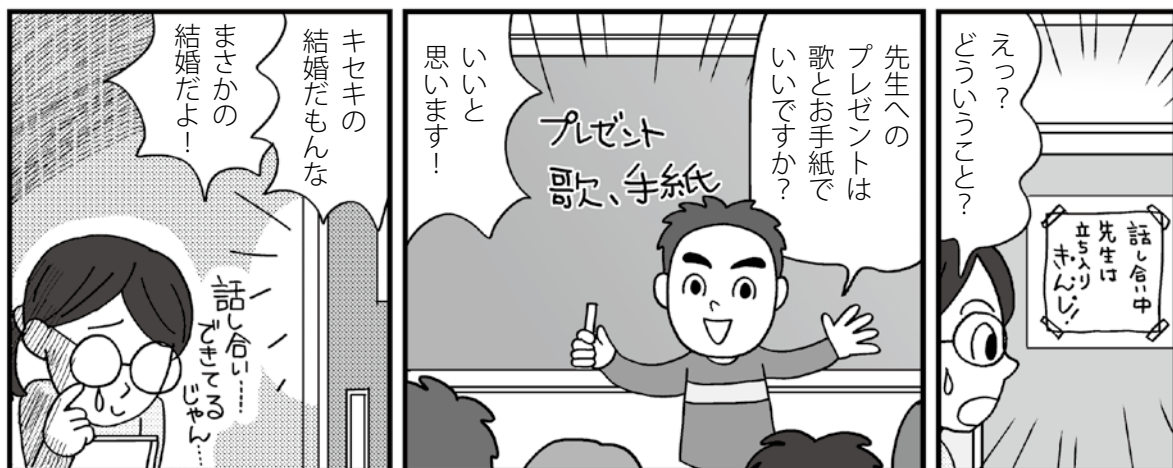


なるほど国語指導
 妖精コッシーが教えます 8

積み重ねで話し合う力を!

作・画/あべかよこ 監修/興水かおり





話し合う力を育てるには、国語科で取り上げた指導内容を、他教科等はもちろん、日常生活で繰り返して活用することが大切。その際、教師がすかさず意図的に評価すると、身につきますよ。(コッシー)

児童文学の冒険

飛ぶ教室

年4回(1・4・7・10月25日)発行

「飛ぶ教室」は、石森延男、今江祥智、尾崎秀樹、河合隼雄、栗原一登、阪田寛夫各氏が編集委員となり、子どもの本と子どもの文化を掘り下げる総合誌をめざして、一九八一年に発刊した児童文学雑誌です。



■第46号(2016夏) 特集「どうぶつ童話、どう？」

定価：本体1,000円＋税
ISBN978-4-89528-981-8

「どうぶつ童話」にある、動物の持ち味やイメージが生かされたおもしろさ、「人間」が登場人物であることとは違う何かに、書き下ろし童話と小論で迫ります。



■第45号(2016春) 特集「今江祥智」

定価：本体1,000円＋税
ISBN978-4-89528-980-1

一昨年3月、惜しまれつつも亡くなられた児童文学作家・今江祥智さん。児童文学界に大きな足跡を残した今江さんを、40名を超える執筆者とともに特集します。



■第48号(2017冬) 特集「長崎訓子編集号 漫画の子どもたち」

定価：本体1,000円＋税
ISBN978-4-89528-993-1

本誌コラム「子どもたちによるしく」でもおなじみ、イラストレーター・長崎訓子。子どもの頃から漫画を愛する長崎編集長が、漫画の力を語ります。人気漫画家も多数登場！



■第47号(2016秋) 特集「行き帰りの道」

定価：本体1,000円＋税
ISBN978-4-89528-992-4

登下校や遊び場の行き帰りなど、日常に在る「行き帰りの道」には出会いや発見がいっぱい！「行き帰りの道」をテーマにしたお話や絵本、詩、エッセイをお楽しみください。

- バックナンバーの詳しい内容は、光村図書ウェブサイトをご覧ください。
www.mitsumura-tosho.co.jp
- ご注文は、お近くの書店、またはオンライン書店でどうぞ。

「特別の教科 道徳」 特設コンテンツを公開中！

光村図書ウェブサイトにて、平成30年度から始まる「特別の教科 道徳」に関する情報を提供しています。

▼光村図書ウェブサイトトップ



◀「特別の教科 道徳」トップ

光村図書

「特別の教科 道徳」が始まります。

平成30年度から始まる「特別の教科 道徳」に関する情報を、随時ご提供していきます。

「特別の教科 道徳」基本のき

「特別の教科 道徳」に関する疑問に、道徳教育の第一人者である富岡栄先生がお答えします。

- ◎【第1回】なぜ、「特別の教科」なのか？
- ◎【第2回】これからの道徳授業は、どこが変わるの？

これだけは知っておきたい
道徳キーワード

新学習指導要領の中から、ぜひ知っておきたい「キーワード」を取り上げて解説します。毎月1回更新のリリースコラムです。

- ◎【第1回】「考え、議論する道徳」とは
- ◎【第2回】「問題解決的な学習」とは

道徳科と
アクティブ・ラーニング Q&A

道徳科の授業の中で、アクティブ・ラーニングの視点をどのように取り入れたらよいのか、Q&A形式でお答えします。

- ◎ 道徳科とアクティブ・ラーニングQ&A

上記の他、ソーシャルスキル、情報モラル、場面絵の活用のしかた、文部科学省の最新情報など、道徳に関連する情報が満載です。ぜひご覧ください。

光村図書ウェブサイト www.mitsumura-tosho.co.jp